

研修名 保健衛生・安全対策

令和元年9月17日（火）10:00～12:30

講演 「子どもの発育・発達の理解と保健計画の作成」
「保健活動の記録と評価」

講師 華頂短期大学 中村 洋子 氏

1 講演要旨

1) 子どもの脳が発達する一番大切な時が乳幼児期

①子どもの脳を意識して、自ら自信が持てるように、保育士の支援はどんなこと？

人に言われたことを考えて、我慢したり表現したり、基本的な「認識形成」は、
ほぼ4歳までに完成 ←考える脳を使う

②そのためには子どもの脳が発達に気をつけること・寄り添うこと・支援する保育士
でありたい

③そのためには自らの脳をきらめかせておくこと

自分の脳とつきあう

- ・疑問に思うこと（学ぶ意欲の源）
- ・脳全体の部位を使うこと（インプットとアウトプット）
- ・イメージしながら聞く、話す、考える
- ・脳の集中できる時間は？ 50分
- ・達成感を持つには？ 目標を少し低く設定
- ・やる気スイッチ 体で表現

2) 実態から出発しよう

気になる様子（実態）を捉え、分析し、課題を見つけ計画・実行
成果を上げる（アウトカム…見える化、数値化、言語化）

3) 未来を見よう

①子どもの未来を見よう

将来よりももっと長いスパンで考える

②そこから見えてくること、そのためにはどうしたらいいか、今できることを学び、
考え、行動しよう

（保健計画を立てる・PDCAサイクルで）

2 感想

生まれた時は、約400gの脳が1歳になると約1000gとなり、乳幼児期は、からだの機能がめまぐるしく発育、発達していくことがよくわかりました。人らしく生きる脳・考える脳のよい成長は、日々の経験の繰り返しによるものというのが、脳の部位、働きから考えると理解できました。

昨今の社会環境、生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康にも大きな影響を与えています。子どもたちの実態をしっかりと見つめ、保護者と一緒に支援していきたいと思えます。
（記録 南丹市立八木中央幼児学園 寺尾 満果）